

# 玉縄学 ～北条早雲 没後500年

2019年11月

## 1 北条早雲 ほうじょう そううん (1456-1519) とは?

伊豆と関東に広大な領国を築いた戦国大名北条氏の初代。かつては素浪人から戦国大名に成り上がったという説も流布していたが、近年の研究により室町幕府の重臣・伊勢氏の一族、伊勢新九郎盛時であることが定説になっている。戦に長けていた一方、禅を学んだ教養人で、四公六民という領民に手厚い領国支配を行った。正式な名は、伊勢新九郎盛時。出家してからは早雲庵宗瑞と名乗っており、北条早雲は後世の通称。玉縄城は、1512年に早雲が築いたとされている。

## 2 キーワード

北条早雲 伊勢新九郎 伊勢新九郎盛時 伊勢盛時 早雲庵宗瑞 伊勢宗瑞 後北条氏  
小田原北条氏 応仁の乱 玉縄城 小田原城 葦山城 興国寺城 今川氏親 北川殿  
早雲寺 虎朱印状 祿寿応穩 四公六民

## 3 早雲と北条五代を知るブックリスト

\*分類はNDC分類を記載し、別置記号は省きました。 \*★の資料は、館内をご利用下さい。

	分類	書名	著者 出版者等	出版年	内容
伝記で読む早雲	289.1ホ	戦国大名・伊勢宗瑞	黒田基樹	2019	最新の研究成果をもとに描く、伊勢宗瑞＝北条早雲の本格評伝。
	289.1ホ	北条早雲 －新しい時代の扉を押し開けた人	池上裕子	2017	わずかな兵をもつ外来者から大名へ。軍事的成功をおさめ、その後の領国支配の柱を作った早雲の生涯を辿る。
	289.1ホ	北条早雲のすべて	杉山博／編	1984	小和田哲男氏による早雲の出自の論考など、当時の早雲研究の様子がわかる。
	289.1ホ	大いなる謎 北条早雲への旅	泉秀樹	2019	早雲ゆかりの地をたどる歴史エッセイ。玉縄城についてのコラムもあり。
	289.1	今川氏親と伊勢宗瑞 －戦国大名誕生の条件	黒田基樹	2019	甥と叔父の関係にあたる2人に焦点をあて、戦国大名誕生の社会的背景を探る。
	289ホ	北条早雲 (コミック版日本の歴史)	ポプラ社	2015	子ども向け学習マンガ。最新の定説とは異なる点もあるが、早雲の生涯が読みやすくまとめられている。
早雲とその一族	210.4	★後北条氏と東国文化	神奈川県立博物館	1989	平成元年に開催された特別展の図録。書状や肖像、印章、花押など豊富な写真を掲載。
	210.47	後北条氏研究	小和田哲男	1983	後北条氏の権力基盤、村落の究明において土豪層に注目した論文集。早雲の事跡についての章もある。
	210.47	後北条氏	鈴木良一	1988	横浜市史の編纂にかかわった著者の、北条氏100年の歴史素描。
	210.47	★戦国遺文 後北条氏編 全6巻	東京堂出版	1995	後北条氏関係文書を集めたもの。人名・地名・寺社名の索引を付す。
	210.47	★北条氏所領役帳 (藤沢市史料集20)	藤沢市文書館	1996	北条氏の一族・家臣の役高を記した帳簿。下山治久氏による人名補註は家臣の人名録としても活用できる。
	210.47	玉縄北条氏 (論集 戦国大名と国衆9)	浅倉直美／編	2012	玉縄北条氏についての主要な論文をまとめた論集。

	分類	書名	著者 出版者等	出版年	内容
早雲とその一族	210.47	戦国大名の危機管理	黒田基樹	2017	戦国屈指の名君と呼ばれた三代・氏康が持っていた危機感とその対策とは？早雲の領国経営も増補で付す。
	288.8	★戦国時代年表 後北条氏編	下山治久／編	2010	伊勢宗瑞の登場から後北条氏の滅亡までの年表。人名索引を付す。
	288.3	戦国北条家一族事典	黒田基樹	2018	当主五代の妻子、玉縄北条氏等の有力支族、主要な家臣の概略によって構成されている。当主五代のカラー肖像も。
	288.3	戦国北条五代	黒田基樹	2019	戦国北条家五代の通史。『戦国北条一族』『戦国北条氏五代』の増補改題。
玉縄城	210.47	甞る！玉縄城七つの謎を解く (玉縄城址遺構群学術調査報告書)	玉縄城址まちづくり会議	2016	玉縄城址の整備をすすめる団体が行った調査研究の成果。写真や地図、年表などわかりやすく作られている。
	210.47	鎌倉・玉縄城の総構え (玉縄城址遺構群学術調査報告書)	玉縄城址まちづくり会議	2017	
	210.1	鎌倉市史 考古編	鎌倉市	1950	玉縄城跡について、地形や沿革・規模、構造など詳細に記載されている。曲輪や砦についての記載もあり。
	210.2	★玉縄城跡発掘調査報告書	鎌倉市教育委員会	1994	複数ある発掘調査報告書の中で、最も詳細。
	210.47	玉縄城跡 (1961年発行の復刊)	清泉女学院	2012	清泉女学院建設の際の調査記録の復刻版。
	210.47	戦国時代の藤沢	伊藤一美	1983	玉縄城主や玉縄衆について詳しく記されており、玉縄城を歩いた記録も。
	289.1ホ	北条氏康の子供たち	黒田基樹、朝倉直美／編	2015	宇都洋平氏による玉縄城についての論文を掲載。
物語の中の早雲	913.6	北条五代記 (通俗日本全史15巻)	三浦浄心	1913	北条五代の逸話を集めたもの。「北条五代記」は国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開されている。
	913.6シ	箱根の坂 (文庫版上・中・下)	司馬遼太郎	2004	1982年～翌年まで、読売新聞に連載された小説。早雲の小説といえばこれ。
	913.6イ	疾き雲のごとく ～早雲と戦国黎明の男たち	伊東潤	2008	太田道灌、上杉定正、三浦道寸などの視点で早雲を描き出す短篇集。
	913.6ト	北条早雲 (全5巻)	富樫倫太郎	2013 ～ 2018	青雲飛翔篇、悪人覚醒篇、相模侵攻篇、明鏡止水篇、疾風怒涛編の5冊からなる。読みやすい文体で歴史小説になじみがない人にも読みやすい。
	913.6ト	早雲の軍配者	富樫倫太郎	2013	早雲に学問の才を見出された風間小太郎の軍配者としての成長を描く。若者の成長を見守る早雲の人物像は温かい。
	913.6カ	早雲立志伝	海道龍一朗	2013	京・東海・坂東にまたがって室町の乱世を生きた早雲の半生を描く。
	913.6イ	黎明に起つ	伊東潤	2017	実像に近い早雲像を描いた長編。
	913.6ト	風魔と早雲	東郷隆	2019	北条早雲に仕えた乱波、風魔小太郎と早雲。ここでは早雲が悪人？！
	913.6イ	戦国鎌倉悲譚 剋	伊東潤	2011	玉縄北条家当主・北条氏舜と里見家ゆかりの青岳尼との悲恋を描く物語。玉縄城も登場。